

第1回 景観づくり活動部門

若命家長屋門の保存活動

秋谷2-14-11

日本にはまだ歴史の浅い「エコミュージアム」を標榜(ひょうぼう)するこの会の活動は、提出された資料によれば地域の固有性を発見するための自然観察会や歴史探訪等の活動に活発で工夫がみられ、それらの活動全体が評価された。三浦半島地域にはいくつかのグループが存在し相互のネットワークも構築されているようだが、今後、この地域におけるエコミュージアムが発祥の国フランスにならった展開をするのか、独自のやり方を行くのか興味深い。(二本柳委員)



ドク板通りの景観づくり活動

本町2,3丁目

横須賀市の特異性の象徴であるドク板通りにスポットを当て、地元商店会と若手のボランティア団体が創意工夫をし、活性化に取り組む地道な活動は、横須賀市の商店街活動に大きな期待を抱かせる。待つ時代から考える時代に移行した今、より地域の特性を前面に押し出した街づくり活動を今後も期待する。

(小池委員)



植樹や竹林整備などの自然景観づくり活動

大矢部地内ほか

横須賀市の「緑の基本理念」やこの会の目的に対して、知識の習得や実践(植樹や竹林の清掃等)を通し、横須賀の緑の景観を次世代に引き継ごうとする活動及び努力が評価された。植物学者・宮脇昭氏によれば、それぞれの土地の潜在自然植生に応じた植栽、緑化を行わないと長持ちしないとのこと。会の願いは「1000年の森」である。このような会の活動が「植物と人間」の関係をより良いものにしていくことに繋がるよう期待したい。(二本柳委員)



横須賀上町教会の保存活動

上町2-43

日頃から慣れ親しみ、あるいは忘れ去られてしまった建築物でも、改めてその由来を指摘されると、それを取り巻く街本来の姿が浮かび上がることがある。本活動は、このような建築物を見いだすため、歴史的建造物のみならず地域の特徴ある建築物に焦点を当てて、その歴史を記録し、さらに景観形成に資する拠点として活用している点が評価される。

(山畑委員)



※ 写真は、受賞時に撮影されたもので、所有者、団体、設計者等の名称は受賞当時のものです。